

オーナーが変われば街も変わる 大家さん同士の繋がりで 未来を開く!

情報が少なく、勉強するのが難しい賃貸経営。日頃からオーナーが抱える悩みを共有し、未来へと向かって一緒に解決することができる「東海大家の会」の全貌とは?代表の加藤さんにお話を伺った。

東海大家の会

東海大家の会とは

概要

【設立年】2014年11月
 【会員数】約300名
 【勉強会や交流会の開催頻度】2か月に1回
 【所属会員の年齢層のボリュームゾーン】20代～40代

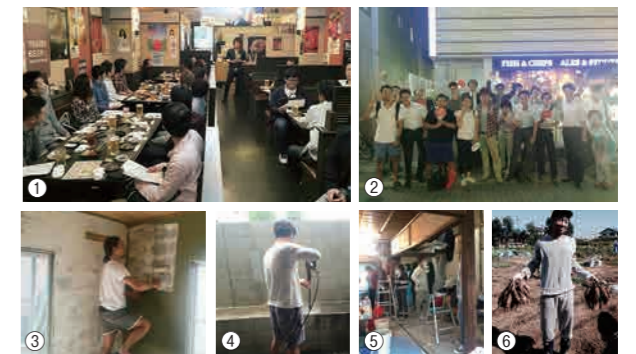
過去に開催したセミナーの内容

- ・賢くやろう! DIY ・大家さんのための資産防衛術
- ・本当の火災保険の使い方 など



東海大家の会 代表 加藤 至貴氏

愛知県名古屋市港区出身。学生時代はバスケットボール選手としてインターハイなどで活躍。23歳の時、土地と賃貸物件、負債を二次相続することになり、不動産賃貸業を始める。自分も含め大家さんたちの勉強、成長の場をと考え「東海大家の会」を設立。



①②和気あいあいとした「大家の会」定期会合 ③④「高圧洗浄ワークショップ」、「ペイントワークショップ大会」などをDIY部で開催 ⑤⑥漆塗りワークショップへの参加、「芋掘り大会」の開催など会のメンバーたちと交流を深めている

個々のオーナーが持つ情報を共有し合うことが成功への近道

「東海大家の会」を起ち上げようと思った一番の理由は、自分が勉強したかったからなんです」と語る、代表の加藤さん。大学卒業後、23歳の時に、土地や賃貸物件などを二次相続することになったのがオーナー業の始まりだ。

「東海エリアは、オーナーさんにとって有益な情報がなかなか入ってきません。セミナーなどの開催も後回しにされるエリアですし、賃貸経営に関する学校も多くはありません。なにしろ、オーナー業を始めるには資格も必要ないので、勉強できる場がないのです」

オーナー業で必要な情報や知識のジャンルは多岐にわたるが、誰に聞いたらいいのかわからない状況。そこから加藤さんは経営が上向きになるよう努力を重ねる中で、「個々のオーナーが持っている情報を集めるのが賃貸経営の成功の近道だ」と考え、その場として加藤さんの同級生であり、シェアハウスなどの運営を行う村松茂正さんと共に設立したのが「東海大家の会」だった。

気軽に集える「コミュニティ」として勉強会も多数開催

「賃貸経営に関する情報や知識をもっともストックしているのは、オーナーさん自身。だからこれをシェアできれば」そんな思いでまず始めたのは、「大家飲み会」。ざつとばらんに気軽に話せるサークルのように敷居を低くして、集まった人たちが各々で交流を深めながら情報交換できる、横の繋がりを重視したプラットフォームとしての場だ。最初は知り合い同士の少人数から始まり、次第にクチコミやフェイスブックなどのSNSを通じて会員は増え、わずか2年足らずで300名近くに達した。不動産経営を始めることになった当初の加藤さんと同じく、勉強の場を求めている地主系の20代～40代の若手オーナーが多いのも、『東海大家の会』の特徴である。会には、稲沢市、豊田市、豊橋市など愛知県郊外の人を中心に、毎回30～40名ほどが集まるという。個々に交流を深めていく中で、「リフォームやDIYの勉強をしてみたい」と「DIY部」が発足したり、賃貸経営を成功させ

て稼ぎたいと思う人が集まる「0(エイトゼロ)」、相続のことを勉強したい人による「相続部」、これから新築物件を購入して経営していきたい人などの「買う部」など、それぞれの目的や夢に沿った部が次々と誕生していった。それぞれの悩みの解消や、希望を叶えるための仲間を見つけられるので、まさに「賃貸経営をどうしていけばいいのか」と不安を抱えるオーナーにとって、有益なコミュニティの場として活用されているのだ。

また、セミナーや勉強会なども月1回～2か月に1回のペースで開催されている。内容は、DIY、資産活用術、保険の使い方、金融機関との折衝の仕方、二次相続のことなど、各回のテーマは加藤さんの実体験に基づいたもので、専門家を講師として招くなど具体的なノウハウも多く、現実に即した実践的な「使える情報」ばかり。ほかにも、DIY部で、近隣住民に声を掛けて高圧洗浄機を使った外壁の洗浄体験、壁の塗装体験など、地域を巻き込んで物件の認知度を高めるような手作りのイベントも行っている。

オーナー業を通して地域の活性化を目指す

「物件さえ持っていれば、左団扇の生活を送ることができるような時代は終わりました。入居者がどんな人たちなのかも知らず、管理会社に任せきり、そして勉強不足ではいけません」と加藤さん。最近では地主系の会員だけでなく、新たに物件を購入し賃貸経営を始めたという投資家系の会員も増え始めてきたという。『東海大家の会』での勉強や交流を通して、書籍を出版する会員や、今では自分で折衝もし、金融機関から融資を受けて所有物件を増やそうとする地主系会員もいるほど、意識は高まっている。

また、加藤さんは学生時代の経験を生かし、バスケットボールの大会を定期開催している。会場として使用しているフットサルアリーナは名古屋臨海高速鉄道「あおなみ線」沿線にあり、同沿線には加藤さんの所有物件も多いのだという。

「オーナー業は、自分の物件の管理だけでなく、物件のある街づくりの一端を担っています。その

東海大家の会に入りたいと思ったら

入会方法はコチラ!

◆参加資格 愛知県・三重県・岐阜県・静岡県などにお住まいの大家さん。20～30代の若手大家さんや、これから大家を目指しているひとも大歓迎。興味のあるひとは下記ホームページをご覧の上、お気軽にお問い合わせを。

◆ホームページアドレス <http://wakate-ooya.nagoya/>

◆メールアドレス wakateooya758@gmail.com

エリアを活性化させ、価値を高めていくことも大事な役割。それがオーナーのあるべき姿だと考えているので、バスケットボールの大会も開催しているのです」

ゆくゆくは、オーナー同士が横のつながりを強固にして、会員同士で自動的に様々な取り組みを進め、それぞれの地域を活性化していきたいとのこと。

「オーナーが変われば、街も変わる。オーナー業は、いわば行政に近い存在だと思っています。『東海大家の会』を通じて、地域を盛り上げていきたいですね」

取材：文/合屋順久 撮影/カメイヒロカチ